

酪農における地域飼料資源の有効活用

【背景・目的・成果】

国際的な穀物需給や価格の変動が激しくなり、自給飼料の重要性が見直されています。
 このような中、土地基盤の制約がある本県の酪農においても飼料自給率を向上させるため、稲わらや地域で確保できる未利用飼料資源(エコフィード)の乳牛に対する有効性について検証しました。

飼料資源



当センターにおける給与試験結果(平成20年度)

飼料資源	給与割合※	摂取量	体重	乳量	乳質	飼料利用の可能性
稲わら	11.2%	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	飼料として利用可
飼料稲	22.2%	変化なし	増加	変化なし	無脂固形分率向上	飼料として有効
なたね油かす	6.3%	変化なし	やや減少	変化なし	無脂固形分率、乳蛋白質率やや減少	飼料給与内容の調整で利用可
バイオエタノールかす	16.3%	変化なし	変化なし	増加	変化なし	飼料として有効

試験方法: 試験牛を2群に分け、1期14日間のクロスオーバー法(1期終了後試験区と対照区を入れ替えてもう1期実施する。)による試験を実施した。
 ※給与飼料全体に対する乾物量換算

【技術の活用】

稲わら・飼料稲については、収穫・調整技術(ラップサイレージ)の普及により安定的な供給を推進し、積極的に利用を図ります。その他の未利用資源についても、安定供給するためのシステムづくりを地域ぐるみで検討します。

兵庫県立農林水産技術総合センター 淡路農業技術センター